平成19年度病害虫発生予察特殊報第２号

平 成 １ ９ 年 １ ０ 月 ２ ２ 日
発表：福島県病害虫防除所

病名　トルコギキョウえそ輪紋病【病原　*Iris yellow spot virus*（IYSV)】

１　発生状況

　平成19年６月に、会津地方で栽培されているトルコギキョウにおいて、葉にウイルス病によるえそ斑紋症状を確認した。健全トルコギキョウに接種したところ、ウイルス病と思われるえそ斑紋症状が再現した。独立行政法人中央農業総合センターにウイルスの同定を依頼したところ、本県では未確認の*Iris yellow spot virus*（IYSV)と確認された。

　その後、数地点のトルコギキョウサンプルをDAS-ELISA法で検定した結果、複数のほ場で発生している可能性が示された。

２　病徴

　主な症状は、葉及び茎にえそ斑が生じ、株によってはえそを伴う葉の黄化や萎縮、茎の屈曲が見られる。他県では発生初期に黄斑、花弁の斑入り等の症状も報告されている。トルコギキョウ（シングルバイカラー）に接種をすると１週間程度で接種葉に円形小型のえそ小斑点が発生した。

３　伝染方法

　本ウイルスはネギアザミウマによって媒介される。アザミウマの１～２齢幼虫がウイルスを獲得し、幼虫および成虫ともにウイルスを媒介する。土壌伝染、種子伝染、一般の管理作業などによる接触伝染は確認されていない。

４　寄主植物

科名	植物名
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ユリ科	タマネギ、ネギ、ニラ、リーキ
ヒガンバナ科	アマリリス、ユーチャリス、クンシラン
アヤメ科	ダッチアイリス
ヒユ科	センニチコウ

５　防除対策

（1）ウイルスの伝搬はネギアザミウマによって行われるので、媒介虫の防除を徹底する。
（2）ほ場内および周辺の雑草はウイルスの発生源やネギアザミウマの繁殖場所となるので、施設内外の除草を徹底する。
（3）施設開口部を防虫ネット（目合い１mm以下）で覆い、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。

（4）罹病植物は二次伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、保毒虫が拡散しないようビニール袋などで密封するなど適切に処理する。

図１　IYSVの感染株

図２　茎葉に発生したえそ斑および屈曲

図３　えそを伴う黄化、萎縮症状

図４　トルコギキョウで接種６日後に生じたえそ症状